



第131号
平成21年9月25日
田迎校区公民館
館長 東 旭
編集委員
上田 昭蔵 吉住 久江
小林省三郎 西 朝徳
☎378-5878
編集責任 吉野元生

ふるさと創世

(住み良い町に暮らしの工夫)

実践項目

校区公民館

- 一、あいさつ運動
- 一、明るく地域づくり
- 一、子供達に夢と誇りを

国宝「阿修羅」展 見学会実施される

平成二十一年八月二十一日(金)に、田迎校区公民館主催による歴史探訪が行われた。今回は国宝の「阿修羅」展の見学会であった。

八月十七日(月)までに、参加希望者を募った所、百四十名近くになり、あわててバスを一台増やし、三台にする。見学会当日に人数が増えて百五十名に達し、バスの補助席を一部使用する程の大盛況となった。

一・五町内は一里木バス停に集合、二・三町内は田迎小運動場に集合して、目的の九州国立博物館に向かった。午前中は博多のアサヒビール工場を見学し、アサヒビール園にて昼食をとる。午後一時にビール園を出発して国立博物館に到着する。観客が多くて、会場にはいるまで二十分以上待ちます。



まずアサヒビール工場見学、出来立てビールでのどを潤し、ジンギスカン鍋でポリウム満点の昼食。バスや食事の隣席同士で挨拶。町内会ならではの交流もツアーの楽しさを倍増させました。

奈良に平城京が置かれたと同時に建立された「興福寺」が来年創建一二〇〇年記念事業の一環として春に「東京・上野」で、夏に「九州国立博物館」で所蔵する国宝を一般公開しています。



テレビでも新聞でも会場には入場者が列を作るほどの人気ぶりだと伝えていました。

「阿修羅」様は、端正なお顔に苦悩と悟りの奥深い表情。スタイル抜群、現代にも通用する小顔。仏像ファンのない若者をもひきつける理由が分かるような気がしました。興福寺ではガラスケースに保護されているそうですが、ここではトンと目の前に三六〇度観ることが出来ます。

そのほかにも貴重な国宝が数多く展示されていました。仏教が栄え、有能な仏師の才能が開く時代の一級品に触れ、その説得力にしばしば別世界を堪能できました。

照明の効果もあり、臨場感にあふれています。漫画やデジタル映像で作品の作られた理由、製作法など分かりやすく説明がされていました。今の博物館は見学者を楽しませるように出来ていることにも感心しました。

参加人数が予想を上回り、役員さん方はうれしい悲鳴を上げていらつしやいました。大変お世話になりました。お陰で心楽しい一日となりました。

国宝「阿修羅」展見学会

二町内 石原輝捷
残暑厳しい八月二十一日に、バス三台で太宰府の国立博物館に奈良・興福寺の国宝「阿修羅」見学会に行きました。

アサヒビールの見学会、試飲と昼食を済ませ、阿修羅の展示会場の国立博物館に着いた。

平日にもかかわらず、見学者が多く人気の高さがうかがえた。

展示会場に入ると、阿修羅の回りは多くの人だかりで人垣がいつこうに動く気がなかつた。十分見学できると心配したが、すぐに、係員が「阿修羅を中心に、左回りに十歩移動してください。」と言った。

号令に合わせて人が移動を始めた。私は阿修羅を二度も回り心ゆくまで見る事ができ大いに満足した。

阿修羅については、美術の教科書で知っているだけだったので、バスの中のVTRが予備知識として役立つ。

阿修羅は、帝釈天と戦い闘争の絶えないものとされ、釈迦の教えにより仏法を守り護するインドの鬼神の一つである。



との説明だった。実際の阿修羅は、三面六臂の乾漆作りの百五十七センチのすんなりした立像だった。

闘争が絶えなかつたことで、正面の顔は怒りと愛いを含んだ表情に見えた。柔和な表情の多い仏像とは大違いで、そこが魅力かなと思つた。また、阿修羅を通して千三百年大切に守り伝えられてきた日本の美しい天平文化に触れることができ、崇高な気持ちになれた一日だった。

阿修羅展見学会を企画された校区公民館に感謝いたします。

トキワキ話

〈第一話〉
七月下旬、田迎小前の二の井手の側を通っていたら、羽根の黒い、川とんぼを見つけた。ひらひらと飛んでいる。本当に久しぶりに見た。これは、二の井手が本当にきれいになった事を証明する出来事である。

〈第二話〉
いつも午後三時すぎに、我家の付近で会うと必ず、かわいい声で「こんにちわ」と挨拶してくれる女の子がいる。それが一回きりではない。会うと必ず挨拶してくれる。三、四年生ぐらいの女の子である。挨拶を聞いて、いつも楽しくなっている。

〈第三話〉
バスの中で託中の女子生徒がやさしく老夫婦に手をそえて、バス停で降りている様子を見た。まったく老夫婦とは関係ないのだから、託中には本当に心のやさしい子どもがいる。その日、一日が楽しくなった。